

コンバットだより.

2014年7月18日 NO4

走れ・燃えろ・釧路コンバット・・・市内大会連続優勝・・・おめでとう！

道新スポーツ旗第46回全道サッカー少年団大会釧路地区予選 終了

期日 平成 26年 7月 5日(土)、 6日(日)

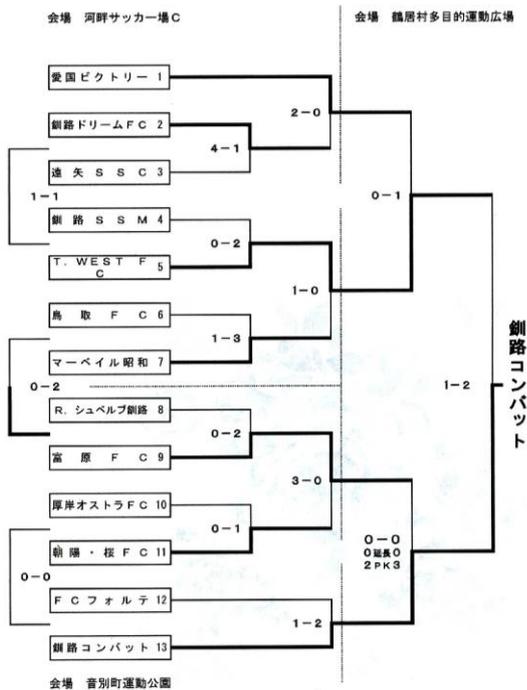
全道少年団大会優勝・・・函館大会以来の全道少年団大会出場おめでとうございます。予選から僅差の試合でしたが実力を発揮し優勝。決勝では5年生も出場し2-1と逆転優勝・・・監督もハラハラの予選でしたがコンバットらしい素晴らしい試合だったと思います。キロロリゾート森の広場サッカー場を会場に7月30日(水)から8月2日(土)まで開催される全道大会の釧路の第一代表として出場することになりました。

道内少年サッカーの最大のイベント・・・いい思い出になるよ！

全道少年団大会は全道のトップチームが参加し、交流会・交流試合もあり道内小学生のサッカー大会では最大のイベントと言えます。参加する選手は全道まで何日もありませんが・・・チームとしても個人としてももうワンランクレベルアップし全道大会では決勝トーナメントに進み、釧路の第一代表として素晴らしい結果を残して欲しいと思います。釧路市はもちろん地域の方や学校の先生方が物心両面で応援してくれる大会です。チームの先輩としてまた各小学校の先生方やお友達からも心から応援してもらえるように勉強だけでなく生活面でも良い行いをさせていただきたいと思います。

父母会を中心に寄付集めを行っています。・・・物心両面のご支援に感謝

既に共小の校長先生をはじめ地域や卒業生やOBから全道大会に向けてご寄付やお祝いをいただいております。全道大会4泊5日となりますので、できるだけ個人負担が少なく大会に参加できるようにコンバット全体でも応援したいと考えております。コンバット出身の皆さんや地域の方等で応援していただける方がおりましたらご連絡いただきたいと思います。卒業生やOBの皆さんも宜しくお願います。



のゴールを決めた。2得点をあげたコンバットの佐藤隆主将(釧路市立光陽小6年)は、予選も1位で全道に行きたかった。ゴールを決めた高橋あやたは、30日から後援員赤井川村、開かれる金大合に出場する。

成績表の通り。0-0で引き分け、PKで0-2で勝利した。T.WESTは、0-2で敗れた。FCフォルテは、0-2で敗れた。富原FCは、0-2で敗れた。厚岸オストラFCは、3-0で勝利した。朝陽・桜FCは、0-1で勝利した。FCフォルテは、1-2で勝利した。釧路コンバットは、0-0で引き分け、PKで0-2で勝利した。



第7回サッカー教室終了・・・37名・・・次回は夏休み中か8月末に予定しております。

6月29日(日)午後1時から開催された今年度第2回目のサッカー教室にコンバットから1年から3年10名と近隣の幼稚園・保育園・小学校から27名参加してくれました。毎回参加してくれるお子さんもおりますが新しく参加してくれるお友達もいました。コンバットの低学年の多くはサッカー教室参加者ですがコンバットのサッカー教室は簡単な練習をしてボールになれサッカーゲームを通してサ

サッカーを好きになってくれればよいと思います。お手伝いのお母さん・お父さん・指導者の皆さん・・・そして一緒に参加してくれた5年生ありがとう・・・教室後に久しぶりに体育館でコンバットの1年生から3年生の練習ゲームを行いました・・・一時間たっぷりゲームを行いました。親子ゲームも行いました。子どもたち楽しそうでした・・・いい練習にもなりました。

少年団指導者・母集団研修会終了・7月7日（日）午後6時30分から8時15分

子どもたち望ましいスポーツ環境づくりのために・・・

柳町スケート場で開催された研修会にコンバットから5名参加していただきました。大塚製菓から熱中症予防の講義そしてスポーツ少年団からは少年団の組織や母集団（父母会等）や望ましい指導者や保護者の心構え等について学びました。後半は参加した約40名の指導者母集団がふた班に分かれ各少年団の活動の様子や課題（今回は子どもたちや指導者を支える望ましい父母会）等について交流（分科会）を行いました・・・忙しい中参加していただきありがとうございます。学んだことをこれからの少年団活動に生かしていただきたいと思います。（熱中症予防や少年団等の参考資料希望の方は申し出ください。）・・・研修会参考資料・・・

保護者の心構え4カ条

指導方法やチームの戦術・戦略には口を出さない

指導者の指導法、チームの戦術・戦略については、原則的に保護者は口を出すべきではありません。自分がその競技を経験したことがあれば、つい言いたくなってしまうかもしれませんが、でも、それをグッと我慢し、子どもには絶対に言わない。指導者が「こう育ってほしい」と望み、子どももそれを理解しているのであれば、保護者は口を出すべきではありません。



「緑の下の力持ち」であれ

スポーツをする子どもの保護者のあるべき姿は、一言でいえば「緑の下の力持ち」です。さまざまな場面で使われる言葉ですが、とくにスポーツ少年団に関していえば、指導者と協力して子どもたちのためのよりよい環境づくりをサポートする、ということに尽きると 생각합니다。



保護者は子どもの牽引車ではない

子どもの「やりたい」という気持ちを、保護者が前に立って引っ張るのは望ましくありません。できれば行きたい方向へ走る子どもの斜め後ろで、静かに伴走しながら支えてあげてほしいと思います。そのためには、子どもの進みたい方向を見極める力も必要になります。



「転ばぬ先の杖」になりすぎない

スポーツでは試合に負けたり、失敗することで学ぶこともたくさんあります。ケガにしてもそうで、大ケガはもちろん避けなければなりませんが、小さなケガであれば、自分にとっての「できる」「できない」を知るうえでも、経験しておくことは意味があります。セミナーでもよく言うのは、「転ばぬ先の杖になりすぎないように」ということです。もちろん見ているハラハラすることはありますが、転んでみないとその痛みはわかりませんし、転ぶ前に支えてしまえば、子どもはいつまでたっても転び方を学ぶことができません。

